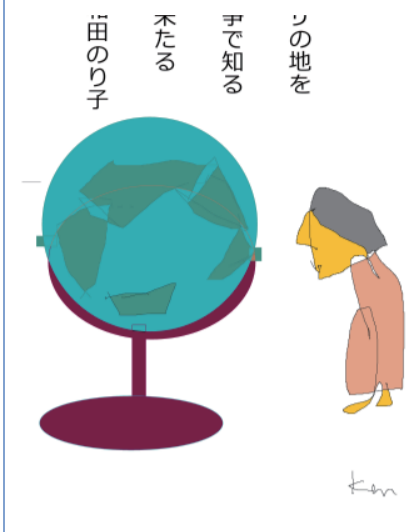


2023年12月

■今月の特選句



### ガザの地を戦争で知る冬来たる

和田のり子

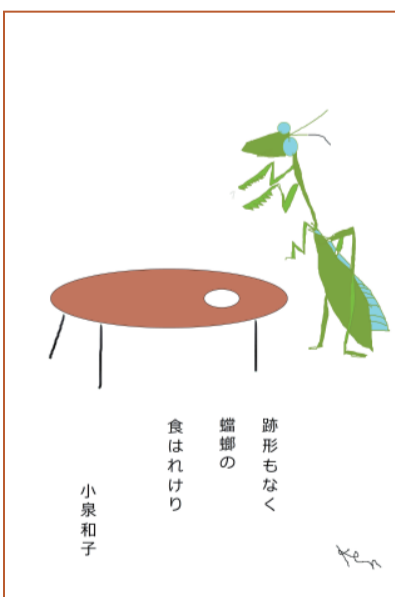
これまで聞いたこともなく、全く関わりもなかった国や地域の名前を、こんなことで知るなんて。その地に暮らす人々の一日、一日を思う。



### 拙宅の補正予算で熊手買ふ

田中やすあき

予定外の物を買ってしまった楽しさが描かれた。補正予算という大袈裟な用語を使ったところが愉快である。「大蔵省との交渉妥結熊手買ふ」。



### 跡形もなく蟻螂の食はれけり

小泉和子

交尾の後、雄が雌に食われてしまうのは蟻螂の世界の常である。作者によれば、脚一本残らず、雄は完全に存在を消されたそうである。

## ■今月の特選句

2023年12月



## 新札へ替へる札なく年用意

峰崎成規

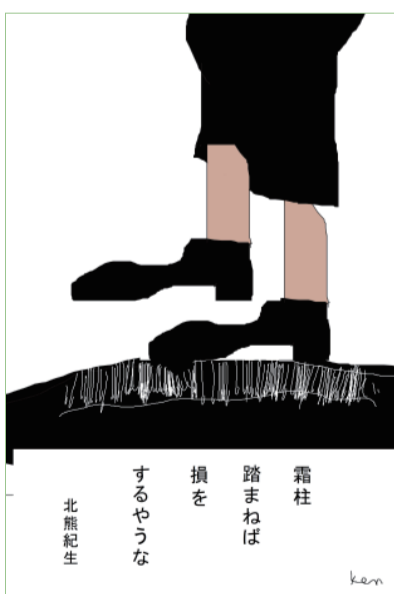
キャッシュレスの時代だが、年玉や心付けなどはやはり現金で渡したい。お金を包む、祝儀は新札で渡すというのは、日本人の繊細な感性である。



## 古典的貌に行きつく菊人形

工藤泰子

時代によって、国や地域によって「美」の基準は変わる。菊人形もその時どきで顔が変わる。個人的な好みもあるが、古典には普遍性があるね。



## 霜柱踏まねば損をするやうな

北熊紀生

霜柱を踏む楽しさは、破壊を体感できること。あの感覚は他では得難い貴重なものである。踏まねば損という気持ちが正直に表現されたね。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

おそらくは暇人ばかり日向ぼこ ・・・日向ぼこてふ仕事してをり	西野周次
いのこづち洗濯されつしがみつく ・・・時代の波の方が怖いさ	横山洋子
七回のワクチン接種おけら鳴く ・・・打つ度ポイント付くといいのに	浜田イツミ
開拓の土のにほひや牛蒡掘る ・・・先祖の苦勞忘るべからず	相原共良
くしやみする君の話は皆フィクション ・・・きょこうの話もよくきこう	藤森荘吉
前歩く子の千歳飴親が持ち ・・・姫や殿には物を持たさじ	井野ひろみ
捨てられて嘆いています大根葉 ・・・栄養もあり根を育てたに	青木輝子
MR I の爆音秋収め ・・・柩の中に収まる心地	赤瀬川至安
ピクルスのビンにてこずる神無月 ・・・神が留守だとスルつと開かず	山本 賜
人生は良い日もあるよ小六月 ・・・ヒトの間に生きて人間	高田敏男
明月や石盗む船今は何処 ・・・海賊船めく宇宙船かな	池田亮二
身が縮む電車の中の大嚏(くさめ) ・・・してもされても過剰反応	稲葉純子
渡り鳥好みの屋根のあるらしく ・・・私の趣味と違つてるけど	上山美穂

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

月明かり足長おじさんにおんぶされ	相原共良
蒼穹をうつしオーシャンブルー野天風呂	相原共良
終活し身軽になって年迎え	青木輝子
前書きを読んだら睡魔読みはじめ	青木輝子
虫穴に入る蜜蜂と骨密度	赤瀬川至安
毛見の犬出もしないのに足を上ぐ	赤瀬川至安
どんぐりの弾かば尻の軽くなり	井口夏子
蓑虫の飛び立つ日を待つ引きこもり	井口夏子
ざわつくや水面に映る紅葉は	井口夏子
神輿担ぐにわか氏は多国籍	池田亮二
葉の散れば糸瓜現る七つほど	石塚柚彩
はらわたに滲みこむ風や刈田道	石塚柚彩
紅葉散る無名の沼に異国人	石塚柚彩
禁酒などしない人生新酒買ふ	伊藤浩睦
虚無僧は晩秋赤穂探索す	伊藤浩睦
基地に墓地ありてや、こし彼岸花	伊藤浩睦
気の置けぬ友とお酒とおでん鍋	稲葉純子
勤労感謝の日不眠不休のハートにも	稲葉純子
爆睡の人終点へ秋の昼	井野ひろみ
仏壇に熱きコーヒー秋深し	井野ひろみ
ブルブルにスマホは居留守冬のバス	上山美穂
女郎蜘蛛朝日を浴びて腰光る	上山美穂
麻酔から覚める病室小鳥来る	卯之町空
夜半の月我が靴音に追われたり	卯之町空
帰り花こんな処にバンクシー	卯之町空
夕焼の街や影絵のごとうかぶ	梅野光子
秋夕陽きゆうくつさうにビル谷間	梅野光子
エチュードのピアノの曲や秋深し	梅野光子
一兵卒のカウチポテトや外は雪	遠藤真太郎
配偶者家内連れ合い冬の星	遠藤真太郎
モナリザの還暦顔や寒椿	遠藤真太郎
エクレアの舌にとけたる文化の日	大林和代
秋のうへ坐り直して夏日かな	大林和代
蛸焼に胸を焦がして演舞の秋	大林和代
霊峰の紅葉を化粧せむとして霧氷	小笠原満喜恵
お城山漆紅葉のくつきりと	小笠原満喜恵
渡り鳥餌場を見つけ群れほどく	小笠原満喜恵
亥の子石つくべき大地あらずして	岡田廣江
夕刻の風が気になり三の酉	岡田廣江
山茶花の白白闇の夜にうかぶ	岡田廣江

めでたいね鯛飯食べに松山へ	沖枇杷夫
瀬戸の海壇ノ浦の霧深し	沖枇杷夫
みずずさんの鈴の音聞こゆ下関	沖枇杷夫
節電の結果が風邪をひくことに	加藤潤子
ドレスの下にスパッツ婆シャツホッカイロ	加藤潤子
パンケーキ焼く研究室のストーブで	加藤潤子
朝日受け小花輝く金木犀	門屋 定
一輪の赤く咲いてる秋の薔薇	門屋 定
静かさや藁塚消えて無人なり	門屋 定
ナポレオン冬将軍には二等兵	北熊紀生
収穫といっても庭から豊の秋	木村 浩
秋まつり半袖も居る長袖も	木村 浩
約束はすべて忘れて牛膝(いのこづち)	久我正明
秋冬の残暑新涼落ち着かず	久我正明
激流の未来海鼠となる女	久我正明
オケラ鳴く野外劇場裏階段	工藤泰子
シナプスが繋がりさうよ蚯蚓鳴く	工藤泰子
十三夜観月の間の刻太鼓	くるまや松五郎
冬どなり驚脚だけの振驚閣	くるまや松五郎
小春日や小春バテなどあるらしき	くるまや松五郎
野兎の骸も知らで秋晴るる	桑田愛子
時雨るるや開かずの踏切開く不思議	桑田愛子
自販機のお汁粉を買ふ冬の真夜	桑田愛子
婆ちゃんの蛸焼部隊文化祭	小泉和子
秋空を蹴ってくるりと逆上り	小泉和子
マトリョーシカの如着膨れて夜警戒	壽命秀次
泣かへんで厚着の子どもは転んでも	壽命秀次
立ち小用に見たぞと蜻蜓(やんま)飛び去りぬ	壽命秀次
幸せを運んで来ます赤い羽根	白井道義
主役にはなれずどんじり運動会	白井道義
裏方に徹して無頼吾亦紅	白井道義
冬に入る神代のままの出で湯かな	鈴鹿洋子
一瞬の外の世界や鯉跳ねる	鈴鹿洋子
毛糸出す樟脳の香の衣裳缶	鈴鹿洋子
箸袋で鶴が出来た ラーメン待ち	鈴木和枝
焼きが大切さっきまで光ってた秋ナス	鈴木和枝
ポケットの上妙な当りは恋のかけら	鈴木和枝
起きてから寝るまで続く秋の風	高須賀溪山
十月や人が地球を壊し合ふ	高須賀溪山
へそで茶を沸かす話や狸汁	高須賀溪山

神の旅敬老席も有りにけり	高田敏男
目の前に敵がいます菊人形	高田敏男
コールタール塗る人のみて秋の空	田中 勇
老いの身や背なに秋思ののしかかる	田中 勇
山粧ふ細道心細けれど	田中 勇
左手の輪ゴムの跡や冬の虹	田中やすあき
涅槃まで自動運転文化の日	田中やすあき
猫じやらし猫背の犬が散歩する	谷本 宴
秋深し鏡に映るシワ深し	谷本 宴
馬肥ゆる牡蠣と穴子の広島路	谷本 宴
小春空ナイキマークの雲ひとつ	千守英徳
亥の子突き道へこまぬか気に掛かる	千守英徳
金の道银杏落葉はちと臭う	千守英徳
絶好の曇天日和運動会	月城花風
同じ顔揃ふ検診寒鴉	月城花風
軽くとも髪はペしやんこ冬帽子	月城花風
晩稲をばんとうと読む大学生	土屋泰山
ジェットコースターに乗り寒露来る	土屋泰山
一面の刈田を望むスキンヘッド	土屋泰山
甘酸っぱい運動会のおみかんは	坪田節子
柿の実のたわわや食べる人を待つ	坪田節子
秋の季語なれど蓑虫ひきこもる	坪田節子
秋思乗せ坊っちゃん列車最終便	長井多可志
猿も出て大騒動の神の留守	長井多可志
YOASOBIが好きで夜長のYouTube	長井多可志
杖つきつポッチャでワイワイ冬日和	長井知則
老いらくの恋の果てなる散紅葉	長井知則
大音響神宮の银杏踏みし音	長井知則
もう一つもう一つとむき栗ご飯	永易しのぶ
客を見送る夜寒の袖に手を隠し	永易しのぶ
芋炊にとり貝あらず箸迷ふ	永易しのぶ
貴婦人の仕上げにまとふ春ショール	西野周次
熱爛を呷るちよび髭鯨髭	西野周次
熊の里にどんぐり井出前せよ	花岡直樹
時は令和秋茄子嫁とともに食む	花岡直樹
ビアの旬保たれしまま冬に入る	花岡直樹
けなされてじゃこ天話題に鯛雲	浜田イツミ
ごつつんこ人かと思えば枝の柿	浜田イツミ

松茸山出口入口石仏  
 流燈を川下で待つ禰宜のあり  
 コスプレのやうないでたち七五三  
 転がっておもしろがつてどんぐりで  
 誤字脱字拾ひ直して冬に入る  
 舞ふ落葉枝にもどりたがつてゐる  
 へたうまを体現してるねこじやらし  
 暫くはもつたいつけて初紅葉  
 共生と冬眠前の熊闊歩  
 冬ぬくし猪日和猿日和  
 年ですね空っ風など堪(こた)えます  
 伊予は秋ハグすりやよかつた健ちやんと  
 再会を約す別れや秋高し  
 長生きをせよと握手の秋深し  
 これっきりと思えば愛し残暑かな  
 大根おろしいつでも辛い夫婦仲  
 渋谷には行かず渋茶でハロウイーン  
 熱爛や下戸一人入れ割り勘定  
 椋鳥入り突如饒舌大櫛  
 老いて冬yokomoji もどき診断書  
 食い扶持よ银杏黄葉に神頼み  
 目耳鼻脳も老け行き秋何処  
 息止めてそのままじつと赤い羽根  
 ぢぢはふと隣のババを引く夜長  
 凸凹の字画を数ふ夜ぞ長き  
 言ふなかれ糸瓜野郎と獺祭忌  
 蜂の子を食べよとすすめ好好爺  
 糟糠の妻の間はず語りや秋の夜半  
 一枚は数多の代表木の葉散る  
 痛いほどすつぱいんだぜこのレモン  
 鯛雲箸でつまんで食べてみた  
 火を恋へば火遊びめいてくる危険  
 夏シャツの重ね着という冬支度  
 紅さを威張る漆紅葉に近づくな  
 怖そうなおじさん笑う秋祭  
 忸怩たる体重計や秋果つる  
 フライング気味にはじまる師走かな  
 栗爆ぜて夫婦喧嘩のそれっきり  
 神の留守儲け話の電話来て  
 御慶述ぶ敬語見習ふ時代劇

久松久子  
 久松久子  
 久松久子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 藤森荘吉  
 藤森荘吉  
 細川岩男  
 細川岩男  
 細川岩男  
 ほりもとちか  
 ほりもとちか  
 ほりもとちか  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 明神正道  
 明神正道  
 明神正道  
 椋本望生  
 椋本望生  
 椋本望生  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村松道夫  
 森岡香代子  
 森岡香代子  
 森岡香代子  
 八木 健  
 八木 健  
 八木 健  
 八塚一青  
 八塚一青  
 八塚一青  
 柳 紅生  
 柳 紅生  
 柳 紅生

投げ釣りを諦めぬ子や秋夕焼	柳村光寛
風雲急告げる癩癩持ちの鴉	柳村光寛
回覧の熊の出没場所に×	柳村光寛
宇宙でも覇権争い後の月	山内 更
七五三晴着の我のでこの傷	山内 更
石菫の花今年やっとなき	山岡純子
洋服と過去捨てにけり冬晴るる	山岡純子
「読むだけで俳人になる講座」秋深し	山岡純子
冬立つも夏日居座り秋いずこ	山下正純
名月の夏日をよそに輝やけり	山下正純
夏日とはもう季語でなし霜の月	山下正純
締切日守ってくれと秋の声	山本 賜
必ずや石菫の花には虫のあと	山本 賜
宅地化に追はれて久し蟬時雨	横山洋子
肩書きの代わりに担ぐ神輿かな	横山洋子
冬の蚊に断りもなしに血を抜かれ	吉川正紀子
ひそやかに今年も咲くや冬ざくら	吉川正紀子
貝の殻砂と戯る冬の浜	吉川正紀子
パスワード途方に暮るる秋暮るる	渡部美香
南瓜煮て味染みる間の仲直り	渡部美香
芋固し剥く母の手もまた硬し	渡部美香
名月や映画のやうに手をつなぐ	和田のり子
早ばやと腰にカイロの共白髪	和田のり子